

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400153		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ北九州神幸		
所在地	福岡県北九州市小倉北区神幸町3番29号		
自己評価作成日	平成22年6月14日	評価結果確定日	平成22年9月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内での運動(歩行練習・リハビリ体操)などに力を入れている。  
 家族参加型のレクリエーションを心掛けており、レクリエーションを通じて、家族との係り、家族との時間をもち、家族と一緒にレクリエーションを楽しんで頂くようにしている。  
 出来る限りホームで生活して頂けるように医療機関との関りを密にし、ご家族、ホーム、主治医との話し合いによって看取り介護を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニチイのほほえみ北九州神幸は、保育園や小学校が隣接する閑静な住宅地に位置しており、周辺にはホームセンターやスーパー等もあり、利便性の高い環境の中にある。ホームのリビングやベランダには、時折、園児たちの元気な声が届き、合同行事等を通じて、日常的な交流が行われている。また、ホームでのレクリエーション、外出・外食行事を積極的に家族に案内し、入居者と家族の絆を大切に支援を行っており、毎月職員が持ち回りで作成する事業所便りからも、その取り組みが伝わってくる。センター方式を活用したアセスメントや日々の記録が丁寧に行われており、具体的な情報を職員間で共有しながら、介護計画作成や、「心につれあうケア」の実践へとつなげるよう取り組んでいる。地域との関係性についての課題は残るが、認知症への理解を育みながら、継続して働きかけを行っている段階である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社研修にて、社是、経営理念の理解、教育を行っている。また、朝礼や会議前に必ず、社是、経営理念を唱和し、実践につなげている。	法人としての「社是」「経営理念」のもとに、ホーム独自の理念「プロ意識」、及び地域密着型サービスとしての意義を踏まえた【私たちの7つの心得】を具体的に示し、実践につながるよう日々取り組んでいる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と交流が深く、保育園からの慰問、芋ほりなどの合同行事など行っている。運営推進会議を通して、地域への働きかけを自治会長を通じて働きかけている。	訪問時には、隣接する保育園から園児たちの元気な声が聞こえており、ベランダ越しに声をかけたり、合同行事を定期的に行う等、日常的な交流の機会がある。近隣住民との日常的な関わりは、少ない状況である。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の方の理解をして頂ける様に運営推進会議を通じて働きかけているが、地域との関りがもてなく、地域貢献が出来ていない。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム、運営状況、人員状況、行事内容など運営推進会議にて報告し、ご家族や包括支援センターと意見交換を行っている。	2,3ヶ月に1回開催されている運営推進会議には家族の参加も多く、状況報告や活動報告等を行い、運営への理解や意見交換の機会としている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携を密にとっており、情報の共有、相談、意見交換など行っている。	北九州市介護保険課、及び地域包括支援センター職員への、運営的な相談や情報共有の機会を通じて、連携を図るよう取り組んでいる。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、ホーム内勉強会にて身体拘束について勉強会や指導を行っており、身体拘束をしない介護を実践している。	身体拘束については、全国の事例をもとにスタッフ会議等にて検討を行い、職員の意識・認識を高めるよう取り組んでいる。施錠を行わないケアを基本とし、各居室も入居者自身で施錠する場合を除いては、施錠されることは無い。ホームとしての【私たちの7つの心得】として法令遵守を掲げている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、ホーム内勉強会にて高齢者虐待防止について勉強会や指導を行っており、ホーム内での虐待がないようにスタッフに徹底している。	

福岡県 ニチイのほほえみ北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、ホーム内勉強会にて権利擁護、成年後見人制度について学んでいる。また、ご家族等に必要性がある場合は活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、現在活用している方はいないが、これまでに活用に向けた支援を行った実績もあり、マニュアルの整備・パンフレットの準備・研修実施等、必要時の支援及び情報提供が行える体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず契約書を書面にて十分に説明し、理解を得た上で同意を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に、意見箱を設置している。また社内アンケートを実施しており、アンケートで得た情報をスタッフで意見交換を行い、運営に反映している。	家族会が発足しており、運営推進会議との同時開催を含め、随時開催されている。具体的な意見の収集に努め、運営に反映させるよう努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフとの個人面談を設けている。また、会議などでスタッフと意見交換を行い、運営に反映している。	毎月行われている、ユニット会議及び全体会議において、職員意見が表出される機会が確保されており、業務改善(あくまでも入居者本位)等において、活発な発言がある。個人面談も実施しながら、職員意見の収集・反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得、キャリアアップ制度にて、スタッフの努力や実績が給与に反映するようになっており、向上心を持って働ける職場環境になっている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフ採用に関して、性別や年齢で判別せず面接を実施し採用をしている。採用後も、研修や資格の取得など、目標に向かって自己実現が出来るように取り組んでいる。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行わないようにしている。キャリアアップ制度を導入し、各ステップにおいて基準を設ける等、モチベーション確保に向けた取り組みを行い、給与等にも反映されている。職員が持ちまわりで、勉強会の講師を務めたり、毎月の事業所便りを作成したりと、個性や能力を発揮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修にて、人権教育を行っており、入居者一人ひとりの人権を尊重した介護に取り組んでいる。	認知症ケアや高齢者虐待防止・身体拘束等の研修実施により、人権尊重への意識を高めていくよう取り組んでいる。法人として、また事業所として法令遵守を周知徹底している。	

福岡県 ニチイのほほえみ北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、ホーム勉強会を定期的に行い、社外研修の参加にも希望者は積極的に参加して頂く様な環境づくりを心掛けている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者に関しては他事業所との交流があり、情報交換、相談など行っているが、スタッフに関しての交流はなく今後、取り組んでいく必要がある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントはセンター方式を活用し、ご本人、家族からの要望や意見を取り入れ、安心して生活して頂けるようしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、ご家族からの要望や意見を取り入れ、ご家族に安心して頂けるような環境づくりを行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との面談、担当の介護支援専門員、ご家族から情報収集し、何を一番必要としているのか問題点を把握して、介護計画に反映している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つのユニットが大きな家族の様な関係作りを目標に、入居者様とスタッフが助け合い、スタッフが入居者から多くを学びながら関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者とご家族がなくなる様、家族参加型レクリエーションをきっかけに、家族との時間、家族との関わりを大切にしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの大きな行事に、友人等へ参加の声掛けを行っている。また、行きつけの美容室など、出来る範囲で対応している。	これまでの馴染みの美容室の利用を支援したり、友人・知人の訪問や連絡(電話・年賀状・暑中見舞い等)への支援を行っている。ホームでの行事や外出行事の企画を、積極的に家族に案内している。	

福岡県 ニチイのほほえみ北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で関わりが持てるような、レクリエーションな考え、出来る限り全員参加にて行うようにしている。また、一人孤立しない様に声掛けし、席順など考えている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族に対し、行事などへの参加の声掛けや、医療機関や福祉施設へ入院等で退去された方へのお見舞いなどを継続して行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から、本人の希望や思いを聞きだし、介護計画に取り入れ支援を行っている。また、困難な場合は、その方には何が必要としているのか、ユニット内で話し合い、介護計画に取り入れている。	センター方式を活用したアセスメントにより、丁寧に情報収集が行われており、一人ひとりの思いや生活歴、ライフスタイル・馴染みの関係等が具体的に記録されている。ユニット会議等において、カンファレンスを実施し、本人本位の検討を行いながら、介護計画作成に反映させている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のモニタリングにて、ご家族、本人から情報収集を行い、また、入居後も毎日の生活の中から今までの生活環境把握を行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での心身の状態の変化を観察し、申し送りにて、情報の共有を行っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや会議などで、本人の状態を話し合い、介護計画書に反映させている。また、かならず、ご家族とも情報交換を行い、ご家族の意見、意向も介護計画書に反映している。	毎月、ユニット会議の中でカンファレンスを行い、本人・家族の意向確認、状況確認・情報共有等が図られ、介護計画作成に反映させている。充実しているモニタリング・アセスメント、個別記録をもとにして、評価・見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での様子はすべて、個別にて介護記録に記入し、保存している。また、介護記録での情報をもとに、介護計画の見直しを行っている。		

福岡県 ニチイのほほえみ北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、主治医以外の通院等の支援など柔軟に対応し、また定期的な歯科往診、医療連携体制による看護師の訪問などによって、健康管理を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事がなく、町内との関わりが余りないが、クリスマス会や夏祭りなどには地域の方にも参加して頂ける様な形で行っている。近隣の保育園とは交流があり、慰問や行事を通じて交流を図っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、入居後はホームのかかりつけ医に変わって頂くようにしているが、ご家族や本人の希望によっては、かかりつけ医を継続している。また、かかりつけ医との情報交換を密に行い、適切な医療を受けられる関係作りに勤めている。	これまでのかかりつけ医、及び複数の医療機関との連携を図りながら、適切な医療活用となるよう体制を整えている。協力医・協力歯科医による定期的な往診、またかかりつけ医等への受診に柔軟に対応している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にて訪問される看護師へ、書面と口頭にて情報交換を行い、健康状態の把握に努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各、医療機関の医療連携室に定期的に訪問しており、入院時の意向、相談が出来る体制を築いている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の体制や、終末期のありかたについて書面にて説明をおこない、ご家族の意向に答えられるよう、医療機関、ホームとで支援を行っている。	重度化した場合における対応に関わる指針及び看取りに関する示し、同意を得ている。本人・家族の希望する過ごし方を尊重し、関係者間の連携を図りながら、これまでに看取りケアを行った実績もあり、最期まで寄り添ったことは、職員にとっての日々の支援の礎ともなっている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時対応のマニュアルがあり、社内研修でも指導している。また、自主消防訓練の際に、急変時への対応の指導を行っている。		

福岡県 ニチイのほほえみ北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、自主避難訓練を行っている。1回は必ず消防隊から指導を受けるようにしており、昼夜を想定した避難訓練を行っている。	年2回、昼夜を想定した訓練を実施しており、消防による指導も受けながら、入居者全員の参加する実践的な訓練を行っている。	現在、運営推進会議への地域からの参加が無く、災害対策について話し合いを行うことは難しい状況にある。行政等の協力を得ながら、地域との関係性の強化を、災害時の協力体制の構築へと繋げて欲しい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人一人ひとりに対する人権を尊重し、プライバシーを損ねないように社内研修やホーム勉強会にて指導している。	排泄時や入浴時の心理についての研修が実施され、声かけや対応への配慮、自尊心を尊重したケアとなるよう取り組んでいる。一人ひとりにあわせた声かけの仕方、呼び名等についても配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような、コミュニケーションのとりかた、働きかけを心掛けながら支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の流れは決まっているが、その時々での本人の希望やペースに合わせて、外出やお昼寝、個人で過ごされる時間を作っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容室を依頼し、また、希望される入居者には美容室に行けるように支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な盛り付け、配膳準備、食後の片付けなどスタッフと一緒にやっている。	食事の盛り付けや後片付けに力を発揮してもらっている。外食を楽しんだり、仕出し弁当を取ってみたりと、「食」を楽しむ機会づくりを工夫している。朝食は個々の起床時間にあわせて対応し、食器は個別の物を使用している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からのカロリー計算されたレシピをもとに、スタッフが工夫して調理をしている。また、個人の能力に応じた食事形態に変更している。		

福岡県 ニチイのほほえみ北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る限り本人に口腔ケアをして頂き、出来ないところをスタッフが介助している。また、訪問歯科を利用し、定期的な歯の治療、管理を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況、排泄パターンを把握し、定期的な排泄介助を行っており、出来る限り、オムツはしない方向での心掛けています。	個別の排泄パターンの把握、またサインを見逃さないようにしながら、トイレ誘導及び排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。現在、2ユニットでおむつを使用している方は殆ど無く、QOLの向上に取り組んでいる成果と言える。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫、水分補給を1日1000mlを目標に、摂取して頂くように取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームでは入浴日を週3回、午後からと決めているが、本人の入浴の希望があれば、その都度、状況を見て入浴が出来るように支援している。	基本的な入浴日の設定はあるが、希望や状況に応じて柔軟に対応している。また随時シャワー浴にも対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に合わせて、休息の時間を設けている。また、日中にレクリエーションや運動を行い、夜間にゆっくりと眠れるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットにて個人でまとめた薬の説明書きを置いており、各自で確認できる状態にしている。また、薬剤師居宅管理指導を契約しており、薬の管理、指導などを薬剤師よりして頂いている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を生活の中で活かせる様に、掃除、片付け、選択たたみなど出来る限り役割を持って頂くようにしている。		



福岡県 ニチイのほほえみ北九州神幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美容室など、本人の希望にそった支援をしている。また、毎月、外食やお弁当をとるなどし、楽しんで頂いている。	周辺には、スーパー・ホームセンター・ファッションセンター等があり、希望や状況に応じて買い物等に出掛けている。季節に応じた外出行事や、送迎バスを活用した外食を企画しており、家族への積極的な案内を行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金の管理はしていないが、外出時などで本人が購入したい物を、おこずかいより支払いをしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話や手紙を書く事を希望があれば支援を行っている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室、バリアフリーになっており、照明類も間接照明になっている。また、適度な温度調整を心がけ、空気の入替えや、空気清浄機を設置。季節の生花を生けるなどして季節感を取り入れている。	明るく、清潔感ある室内空間には、季節に応じた飾りつけがなされている。リビングには和室スペースが設けられ、またベランダやウッドデッキへとつながっている。静かな周辺環境の中で、時折隣接する保育園から元気な声が聞こえてき、ベランダ越しに声かけが行われている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に個人の居室があり、個人の自由な時間を過ごして頂いている。また、気の合う入居者同士で話ができるよう席順を考えている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームには備え付けの家具はなく、入居時に現在使用している家具や、食器類などを持ってきて頂いており、慣れ親しんだ環境となるべく変えないようにしている。	大切にしている鏡台や嫁入り道具であった箆箆等が持ち込まれ、家族の写真等も飾られており、その方にとっての居室づくりに配慮されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーになっており、出来る限り自立した生活が続けられる様になっている。		